

## 平成26年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(川越町)の概要

12月14日(日)に「ボランティアハウスささえあい」で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、ボランティア活動とボランティア団体の連携に取り組んでいる「川越町ボランティア連絡協議会」の皆さん8名に、活動内容や活動への思いなどについて、ご意見などをお伺いしました。



### 【参加者からの発言】

代表から「川越町ボランティア連絡協議会」の活動について紹介していただいた後、メンバーの皆さんから、自己紹介していただきました。

(活動紹介)

○川越町内で活動する給食ボランティア、読み聞かせボランティア、手話ボランティア、点訳ボランティア、傾聴ボランティアなど13のボランティア団体が所属しており、社会福祉協議会と各団体との連絡調整やふれあいまつりへのブース出展などを行っている。

**Q. この活動に参画してよかったこと、楽しかったこと、嬉しかったことについてお聞きしたい。**

○デイサービスやグループホームなどで、一対一やグループ単位で1時間程度傾聴をしている。施設の利用者から「待ってたよ」、「また来月も来てね」と言われること

が何よりも嬉しい。

- 町内 10 地区の老人会の定例会で、お昼ごはんやお菓子、お抹茶を作って、老人会の皆さんと交流を深めている。10 年くらい続けているが、参加人数が年々増えていることが、励みになっている。
- 小学校のゲストティーチャーとして、年に 3 回茶道を教えているが、10 年前の教え子が、大学生になってから老人会で抹茶をサービスするボランティアに加わってもらったことが、本当に嬉しかった。
- 給食ボランティアとして、お年寄りに外出をしていただくことを目的に、お弁当を提供している。新聞や雑誌に載っている料理の記事を参考に、自分たちでメニューを考え、単価を抑えて頑張っている。毎年みんなでテーマを決めているが、来年は「地域の郷土食」をテーマに取り組んでいきたい。
- 男性によるボランティア活動として、障がい者施設や老人会でそばを提供している。三重県はそもそもうどん文化で、そばを打っているところを見たことがない人が多いので、大変好評を得ている。多分奥さんに一番喜ばれる。
- 写真や絵画は活動自体にボランティア性がないが、そば打ちは自分が作ったものを食べることができて、人にも喜んでもらえるため、はまる人が多い。定年後に何をしようか迷っている人は、是非そば打ちをしていただきたい。
- 児童館や子育て支援センターなどで、絵本の読み聞かせをしている。子どもたちに絵本の楽しさを知ってもらい、豊かに育ててほしいという思いで活動を始めて 20 年くらいになる。子どもだけでなく、お母さんも楽しみに待っていると聞いたときは嬉しかった。絵本を親と子どもが触れ合うためのツールとして使っていただきたい。
- 小さい子どもは、絵本をじっと聞いていられないことも多いが、「エプロンシアター」といって、エプロンやぬいぐるみを使って「桃太郎」や「3 匹の子豚」の話を聞かせると、泣いている子どももピタッと泣き止んでくれる。
- 母が認知症だったので、認知症予防のためにも手話の勉強を始め、今は手話の勉強会を毎週月曜日に実施している。聴覚障がい者の理解と共生のために、みんなが手話を少しずつ覚えてほしいと思って活動している。
- 児童館や小学校で、子どもたちに手芸を教えているが、今は親が針や糸を使わないので、子どもも興味を持ってくれる。正月飾りを T シャツや着物のリサイクル、ペットボトルのふた、綿棒、ストローなどで作るため、親にも子どもにも喜ばれている。
- ボランティア活動をしているというよりは、「川越町ボランティア連絡協議会」の会長として、多くのボランティア団体をつくっている。いろいろなボランティア団体と一緒に活動していくのが一番の楽しみである。この連絡協議会を平成 9 年に設立してから、所属団体が増えてきて、本当に楽しいと思っているので、これからもみんなと一緒に活動を続けていきたい。

### 【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

- 親も、ボランティアの人による絵本の読み聞かせの術を学んで、家でやってみると喜ばれるのではないか。四日市には、10人くらいで順番に絵本を読んで、誰が一番面白く読むことができるか競い合っているパパサークルがある。
- 手芸でリサイクル品を使うことによって、子どもたちも物を大切にすることを学んでいると思う。
- ボランティアをやっている人で、心理的に負担感を感じている人がいる中で、皆さんが楽しく、ボランティアを生き甲斐や日々の張り合いとして、頑張ってもらっていることを本当に嬉しく思う。
- 県の総合計画である「県民カビジョン」の中に、自立し、行動する県民である「アクティブ・シチズン」を増やしていくことを明記しているが、皆さんは「アクティブ・シチズン」の先頭に立って活動を行っていただいている。
- これからも時代や環境の変化によって、さまざまなニーズが出てくると思うので、是非皆さんのお力をお借りしたいと思っている。私たちもしっかりと応援していきたい。



「川越町ボランティア連絡協議会」は、川越町内でボランティア活動を行う団体及び個人が、連絡調整を行う中で連携を図り、共に躍進し、社会福祉の増進を目指すことを目的に、平成9年に設立された団体です。

現在、給食ボランティア、読み聞かせボランティア、手話ボランティア、点訳ボランティア、傾聴ボランティアなど13のボランティア団体が所属しており、各団体と川越町社会福祉協議会等との連絡調整や、地域のイベントへのブース出展などを行っています。